

は、椎を四位に寄てよめるが如し、本義にあらず、一説に位山の木は笏の木ともいふ、一位にていちひの櫟にあらず、榧に似たり、よて飛驒にていぬかやといふ、赤き實を結ぶ、榧よりは葉柔らかにして、信州にて峯蘇芳といひ、花肆にては伽羅木といふ物也、満山皆此木なりとぞ、又楊弓の箭の木とす、

〔和漢三才圖會八十二〕伽羅木 加羅木俗稱 於豆古夷稱

按伽羅木出於蝦夷及松前、土人呼曰於豆古、今京師亦希有之、高五七尺、樹葉並類檜柏而甚繁茂、不見其枝、極結實圓青色、至秋紅熟如櫻桃、人取食之、味甜美、內有小白仁、其櫛微黑色、光膩如奇楠木理、故俗曰伽羅木乃柏之屬也、

〔地錦抄五〕伽羅木 つかもみのごとくにて色青黒し、根本より葉こもりて木ぶり見事、笏に用らる、木にて一位、木共いふとぞ、此木異名多し、

おつかう みねすわり あら、ぎ とが 一位、此木を植れば、疫をはらふとて、伽羅木といふよし、葉は少の異にて、色々の名あり、めきやらぼくは葉こまかにつまりて八重 をきやらぼくは葉あらし、ひとへきやらは葉もみのごとし、葉八重成めきやらぼくを上とス、

羅漢松

〔書言字考節用集六〕羅漢松一名仙柏

〔和漢三才圖會八十二〕仙柏 羅漢樹閩書 羅漢松同 俗云良加牟末木

按仙柏葉似狗楨而小、甚細密、一叢七八十葉、六月葉間結子、大如豆、似小蒲荷而末圓、本細長、有重臺、至秋其本肥大紫熟、末圓青色、儼似僧形、故俗名羅漢樹、其頭中有子、頭以下紫肉、味甜可噉、夏月葉間生蛙、蠹葉、每可掃去、

〔和漢三才圖會八十二〕楨音願

香木 中略